

令和7年度蔵書評価実施報告

実施日	令和7年9月26日(金) 13:00~14:15
評価分野	ぎふ清流の国文庫のうち、航空宇宙産業 および 一般の538 航空宇宙工学など
評価者	大学教授 1名
評価方法	各分野の開架の蔵書を診断者が確認し、専門家の視点から蔵書の構成や排架などについて気づいた点を指摘する。

〈診断結果(概要)〉

○総評・留意点

- ・わりと網羅的に収集されている。
- ・ぎふ清流の国文庫と一般の書架ではっきりした区分けをするのは難しい。読みもの(縦書きの本)やビジュアル中心の本など、興味関心への入口となるような本を清流へ、各ジャンルの教科書的なもの、専門性の高いものは一般へと分けるとよい。
- ・関連資料が2か所に分かれて排架されているので、それぞれに各棚を案内する。

○分類別評価

1. ぎふ清流の国文庫について

- ・物理や相対性理論などは、読みものを置くとよい。
- ・惑星を個別に紹介した本があると楽しいのではないか。
- ・宇宙の果てなど、新しい発見が反映されている資料にきちんと更新すること。
- ・飛行機の機体の解説本や、パイロットや整備士による読み物があると楽しいのではないか。一般の書架からこれらの本と、機体を紹介する『空飛ぶクルマ』『ビジュアル飛行機図鑑』をぎふ清流の国文庫に移動するとよい。
- ・ISS(国際宇宙ステーション)関連があまりないので補充し、宇宙の住居や生活に関する本は新しいものが出版されているので更新するとよい。
- ・宇宙で生活するための道具や暮らしについて、宇宙飛行士の選抜試験やエアラインパイロットについての本も増やすとよい。
- ・航空機模型や紙飛行機、ペーパークラフトの本(二宮康明氏の著書など)を置いてはどうか。
- ・『世界の傑作機』シリーズ、『日本航空機全集』もあるとよい。

2. 一般書架について

- ・ぎふ清流の国文庫との区分けという観点から、教科書的なもの、方程式がたくさん出てく

るようなもの、工学系の専門書は、一般書架へ移動させるとよい。

- ・航空宇宙工学も、他の工学系とのバランスを考えると、同じように教科書的なものは一般書架に集めた方がよい。(例えば『航空工学講座 全 11 巻』、『飛行機の翼理論』、『航空宇宙工学テキストシリーズ』、『流体力学の基礎』など。)
- ・電気工学の本は、全体的に見て、ぎふ清流の国文庫にあることに違和感がある。一般書架へ移すとよい。

【今後の対応】

- ・指摘を受けた分野、紹介された資料の収集を検討する。
- ・ぎふ清流の国文庫と一般の書架、双方の棚に、それぞれを案内する表示をする。
- ・入門書やビジュアル中心のものをぎふ清流の国文庫へ、教科書的なものや専門書を一般の書架へ移動する。
- ・宇宙に関する新しい発見や、新しい技術について、意識的に情報収集して把握し、図書の更新や充実に努める。